

・地域活動全体として、コロナ禍により休止していた活動を再開したいという認識が強い

	各地区の動き	地域住民の声	地区担当ワーカーからみた課題と今後の展望
精道地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 町ごとの活動が少しずつ再開している。 地域での活動に活かすため、理学療法士によるフレイル予防の勉強会を開催した。 コミスクの夏祭りが7月にコロナ後初めて開催した。 精道小学校4年生対象に福祉学習実施（視覚障がい者講話、車いす・アイマスク体験） クラーク記念国際高校生対象に福祉学習実施（視覚障がい者講話、知的・発達障がい体験） 	<ul style="list-style-type: none"> フレイル予防の勉強会を実施したので、高齢者に伝えていく必要があると思った。 コロナ禍で小学校とのつながりが切れていたが、福祉学習で久々に行くことが出来てうれしかった。 これまでの地区福祉委員会は、ディスカッションが深まらず疑問が残った。フラットに話したい。 見守りが必要な高齢者についての情報共有をどうしたらいいんだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 改選を機に、あらためて民生委員、福祉推進委員の役割の確認を行うとともに、精道地区福祉委員会のあり方を考える。 福祉学習の協力を依頼すると、参加者が多く、関心が高いことが分かった。子ども達と委員が関われる場面には、呼びかけを続けていく。 委員同士、対話出来るような委員会にする。まずは対話を通して親睦を深め、関係づくりから始める。 自治会や老人会との情報共有の仕方について、他の地区・町事例を確認する。
山手地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 地区福祉委員会の中で社協だよりの配布や地区だよりの発行など、地区活動の情報発信等に課題があるとの意見があり、意見交換を行った。 大原町で民間企業が子ども食堂をテイクアウト形式で開始（月1回） 山手町自治会で、町内に住む学生を講師にスマホ講座を開催した。 山手小学校4年生対象に福祉学習実施（視覚障がい者講話、アイマスク体験） 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者訪問は孤立しがちな地域性もあるので必要なことだと思う。 役員のなり手がいない、自治会に加入しないなど自治会が存亡の危機 活動の負担軽減を考えたい。 福祉推進委員をしているが、困っている人がどこにいるのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区活動の情報発信や、担い手の発掘などを話し合う場が必要である。 民生委員、福祉推進委員が把握している対象者の情報共有について、専門職との関係づくりをする必要がある。
宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 地区福祉委員会で、社協の地域福祉推進計画やヤングケアラーの勉強会を実施した。その内容を地区福祉だよりに掲載し、住民に周知する予定。 浜町で、空き家を活用した「結カフェ」を浜町の民生委員、福祉推進委員が実施（月2回） 若宮サロンが再開した(月1回)。コロナ前は自治会と合同だったが、地区委員会主催で再開。 呉川町の飲食店で子ども食堂開始（月1回） 呉川町自主防災会がスマホ講座を3月に開催予定 宮川小学校4年生対象に福祉学習実施（肢体障がい者・視覚障がい者講話、車いす・アイマスク体験） 宮川幼稚園・小槌幼稚園園児対象に福祉学習実施（視覚障がい者講話） 西蔵こども園園児対象に福祉学習実施（肢体障がい者講話、車いす体験） 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、福祉推進委員だけでなく、地域のいろいろな方と、「こんな町にしたい！」を考えていきたい。 ヤングケアラーの勉強会を実施してみて、継続的に考えたいと思った。 冬の寒さで地域の高齢者が弱っており、「早くお迎えが来てほしい」と言う。どうしたらいいんだろうかと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ヤングケアラーの勉強会をきっかけとした、次の展開を検討する。 地域の中で、「こんな町にしたい！」を考える場を作ることを地区福祉委員会を中心に実施する。 対応に困ったりモヤモヤした気持ちを抱えている活動者が多い。一人で抱え込まないよう、活動時の悩みの共有や、自分だったらどうする？など、考えたり話し合える場を作っていく。
岩園地区	<ul style="list-style-type: none"> 各町ごとに高齢者訪問を実施 地域の活動に活かすため、理学療法士によるフレイル予防の勉強会を開催 コロナ後初の地蔵盆を開催し、コロナ前よりも多くの参加があった。（親王塚町） コロナ後初の「高齢者のつどい」を11月に開催。 翠ヶ丘町に「プラスワン岩園ひまわり」が開所した 岩園小学校4年生対象に福祉学習実施（肢体障がい者の講話、車いす体験） 岩園幼稚園園児対象に福祉学習実施（視覚障がい者） 	<ul style="list-style-type: none"> フレイル予防講座の内容を知り合いに話している。 フレイル予防講座で学んだことを生きがいデイサービスなどで広めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区全体での活動ができなかったことにより、地区委員会で「話し合う」ことがほとんどなかった。地区全体のことだけでなく、それぞれの町ごと、委員ごとの普段の活動からの課題について、「話し合う」地区福祉委員会にする。
朝日ヶ丘地区	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、福祉推進委員が朝日ヶ丘コミスク主催の読書会に参加し、同時に下校時の見まもりを実施することで、子どもたちに顔を覚えてもらえるように取り組んでいる。 コミスク夏祭りが、コロナ後初の開催の予定が第7波のため中止になったが、10月に秋祭りとして開催した。 コロナ後初の高齢者の集いを12月に開催した。 朝日ヶ丘小学校5年生を対象に福祉学習実施（視覚障がい者・聴覚障がい者講話、車いす・アイマスク体験） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子どもと顔見知りになることができ、見守りや声をかけやすい環境になった。 	<ul style="list-style-type: none"> もともと、コミスクと地区福祉委員会の連携はできている地域であるが、読書会や下校時の見守りによる、地域の子どもと顔見知りになったことで、民生委員、福祉推進委員としてできることを考えていく。

	各地区の動き	地域住民の声	地区担当ワーカーからみた課題と今後の展望
三条地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体で高齢者訪問を実施 ・コミスク夏の夜のつどいがコロナ後初の開催予定だったが、第7波のため中止 ・コロナ後初の高齢者の集いを各町ごとに9月～10月にかけて実施 ・三条町に「プラスワン三条えがお」が開所した。 ・地区防災訓練が再開した。 ・山手中学校1年生対象に福祉学習実施（視覚障がい者・聴覚障がい者・肢体障がい者・高齢者施設職員講話、知的・発達障がい体験、認知症サポーター養成講座） ・西山幼稚園園児対象に福祉学習実施（視覚障がい者） 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問により対象者の入院が把握できた。 ・訪問を望まない人がいる。 ・訪問から地域包括につないだケースがあった。 ・訪問の大切さ、必要性を改めて実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「訪問活動を積極的に行う」ことを目標に活動してきたが、訪問により気づいた“訪問を望まない人”“訪問から地域包括につないだ人”と地域でどう関わるかを話し合う場を作りたい。
打出浜地区	<ul style="list-style-type: none"> ・10月～11月に各町で高齢者訪問を実施予定 ・休止していた子ども会が復活した。（春日町） ・介護予防を中心とした「集い場 縁」が立ち上がる。（春日町） ・プラスワン打出浜ブーケでスマホ講座を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から、「つどいはしないの？」との声がある。 ・子どもとの関りがほとんどないとの声がある。 ・子ども会活動が復活するなど、少しずつ地域でのつながりを取り戻す動きが出てきている。 ・コロナ禍で委員同士、顔と名前が一致しないまま改選を迎えた。今後は、親睦を深め、楽しい会議にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動が復活しつつある中、経験の長い民生委員が数人定年を迎えたため、打出浜地区福祉委員会のあり方を話し合う必要がある。 ・福祉学習のお手伝い等を通して、委員と子ども達が関わりが持てる様、呼びかけたい。 ・委員会の中で、さまざまな組み合わせで話せる場面を作り、話し合いを通してまずは親睦を深める。
潮見地区	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に高齢者のつどいを実施。 ・地区福祉委員会内でコープこうべの協力によりローリングストック講座、ボランティアグループの協力により車いす講座を実施。 ・地区内に「陽光町わいわい食堂」「わかば子ども食堂」「陽光亭（R5.4～）」という地域食堂が3つあり、浜風地区の2つの地域食堂と合わせたネットワーク会議が立ち上がる。 ・「わかば子ども食堂」が学習支援を開始。 ・潮芦屋ふれあい元気の会は、年4回の地域イベントを継続。他地区からの来場者（子育て世代）も増えている。 ・潮芦屋では地区防災計画の策定に向けて、3回のワークショップを行った。 ・潮見中学校1年生対象に福祉学習実施（視覚障がい者・肢体障がい者講話） ・潮見小学校4年生対象に福祉学習実施（視覚障がい者・肢体障がい者講話、車いす・アイマスク体験） ・潮見幼稚園園児対象に福祉学習実施（視覚障がい者） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会による見まもりを熱心に行っている。高齢者はつながり先がわかるが、知的・精神に何らかの障がいがあると思われる人の対応に苦慮している。 ・地区福祉委員会では委員同士仲良くなって、発言や連携をしやすい空気を作ろう。 ・担い手の発掘のために、若い世代とつながれる機会を持ちたい。 ・既存のプログラムの内容を見直したい。 ・訪問事業の手紙は喜ばれているから続けよう。 ・普段からの声かけを大事にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災から30年近く経ち、災害を自分ごととしてとらえ、防災に取り組む姿勢が薄れている。自助、互助の意識をいかに浸透させられのかが課題である。 ・地区福祉委員会においては、「今までにない活動をしていきたい」という機運が高まっている。さまざまな情報提供やコーディネートを行いながら、活動の幅を広げていきたい。
		<p>潮見 浜風 共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦屋浜地域（潮見地区の一部、浜風地区）で、自治会連合会がアンケートを実施。特に子育て世代において、自然環境・学校園に近いことにおいて評価が高いが、気軽に立ち寄れるカフェや飲食店、コンビニなどを求める声が多かった。 ・この地区には継承されてきた文化がない。今の大人たちがまとまって引っ張らないと、地域が盛り上がらない。「〇〇が楽しかった」と思ってもらえるまちだといいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治組織の結びつきが強く、活発に地域行事が行われていたが、役員の高齢化やコロナ禍の影響で、大規模な行事の開催が難しくなってきた。 ・民生委員、福祉推進委員とも定員を大きく下回っており、負担感が増している。若い世代、動ける人たちのスカウトが課題である。 ・高齢者虐待の通報事例が他の地区に比べて多い。 ・多様な福祉問題に対し、当事者、専門職、住民、事業者等がどのように支え合いの体制を築いていくのが課題である。
浜風地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体で高齢者訪問を実施 ・4月に高齢者のつどいを実施 ・福祉マップ、リストの作成について、地区福祉委員会内で協議した。 ・5月の生きがいデイサービスでいきいき100歳体操を始めて行い、男性の参加が初めてあった。 ・4月に地域食堂「またあした食堂」が、10月に「高浜いちばん食堂」が立ち上がった。 ・1月、福祉もちつき大会が3年ぶりに開催された。 ・「またあした広場」は、季節のイベントや味噌づくり体験などを継続中。 ・浜風小学校4年生対象に福祉学習実施（視覚障がい者・肢体障がい者講話、車いす・アイマスク体験） 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちはどんな風に見まもりをしたいかを話し合うべきではないか。 ・自立を望んで生活している人に、どこまで介入すればよいか。 ・地区全体の活動だけではなく、身近な町ごとの活動も必要ではないか。 ・小学校の福祉学習に参加したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者については、「1か所に出てきてもらう」「集まってもらう」という形の交流に無理が生じ始めている（物理的・心理的距離）。役員の負担感が増す中で、どのように交流の場を担保するのが課題である。 ・既に行われている活動を評価し、エンパワメントしていく。